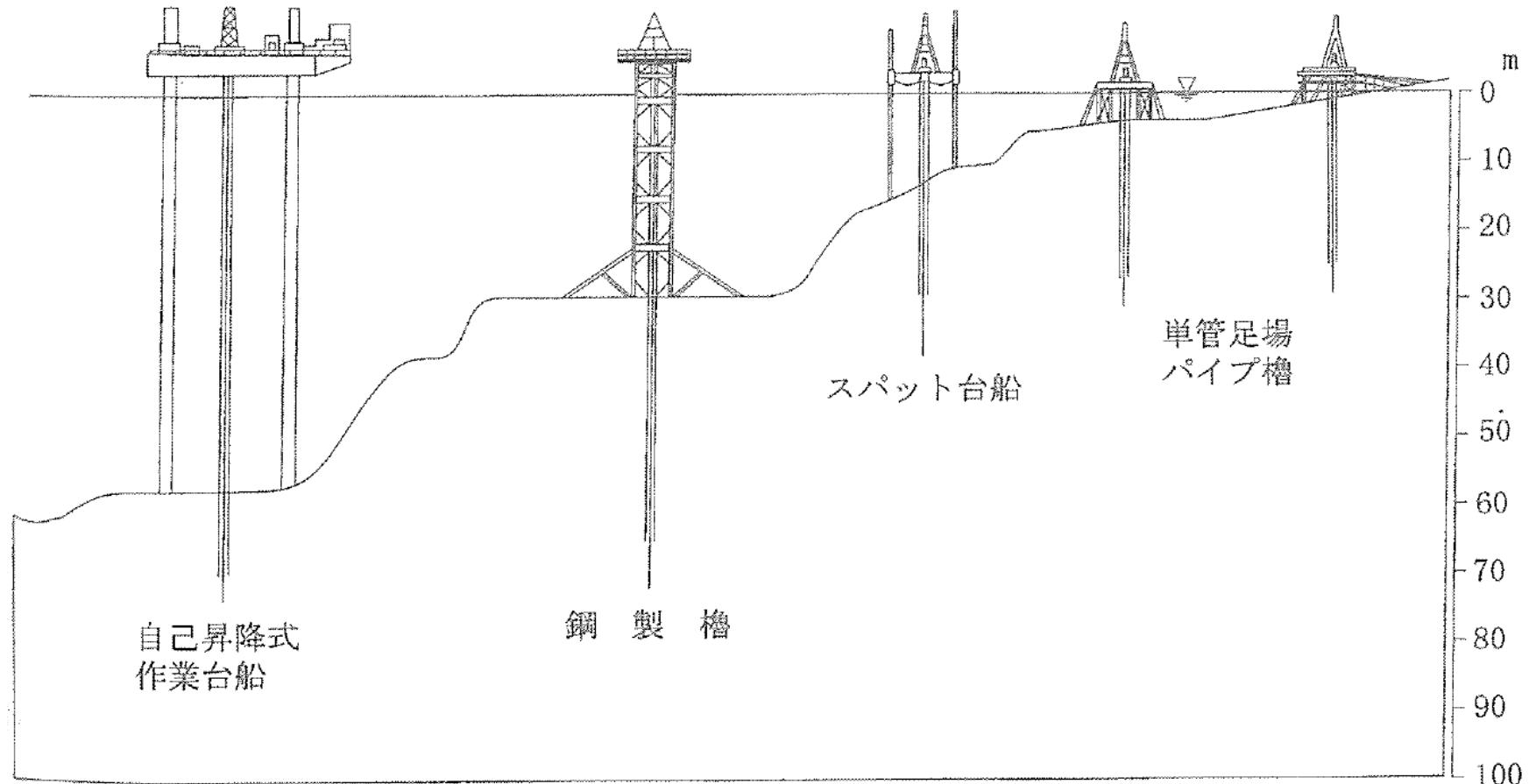


# 標準的な足場形式(水上)



『改訂版 現場技術者のための地質調査技術マニュアル』より引用

# 標準的な足場形式(水上)

足場形式	適応水深	仮設方法	摘要
単管足場	0 ~ 3m	現地組立	静かな内湾、岸から比較的近く場所向き
パイプやぐら	3 ~ 8m	現場組立、小型クレーン船により移動	静かな内湾、水深比較的浅く、水底が平坦な場所向き
鋼製やぐら	4 ~ 30m	杭打ち船より打設、現地組立解体	水底の傾斜、起伏が多い所では使用困難。うねり大きい水域ではアンカなどで安定化
鋼杭足場	4 ~ 30m		海底面の傾斜、起伏が大きい場合に適。水深が浅く波浪による洗掘がある場合に適。長期使用、継続使用に適
スパット台船	4 ~ 27m	現場組立、引船により移動	静かな内湾、水深比較的浅い場所向き。推定面に傾斜、起伏ある場合でも使用可。移動が簡便
自己昇降式台船	30 ~ 50m	工場組立	大深度、外洋での作業向き。製作費高く、回航必要で高費用

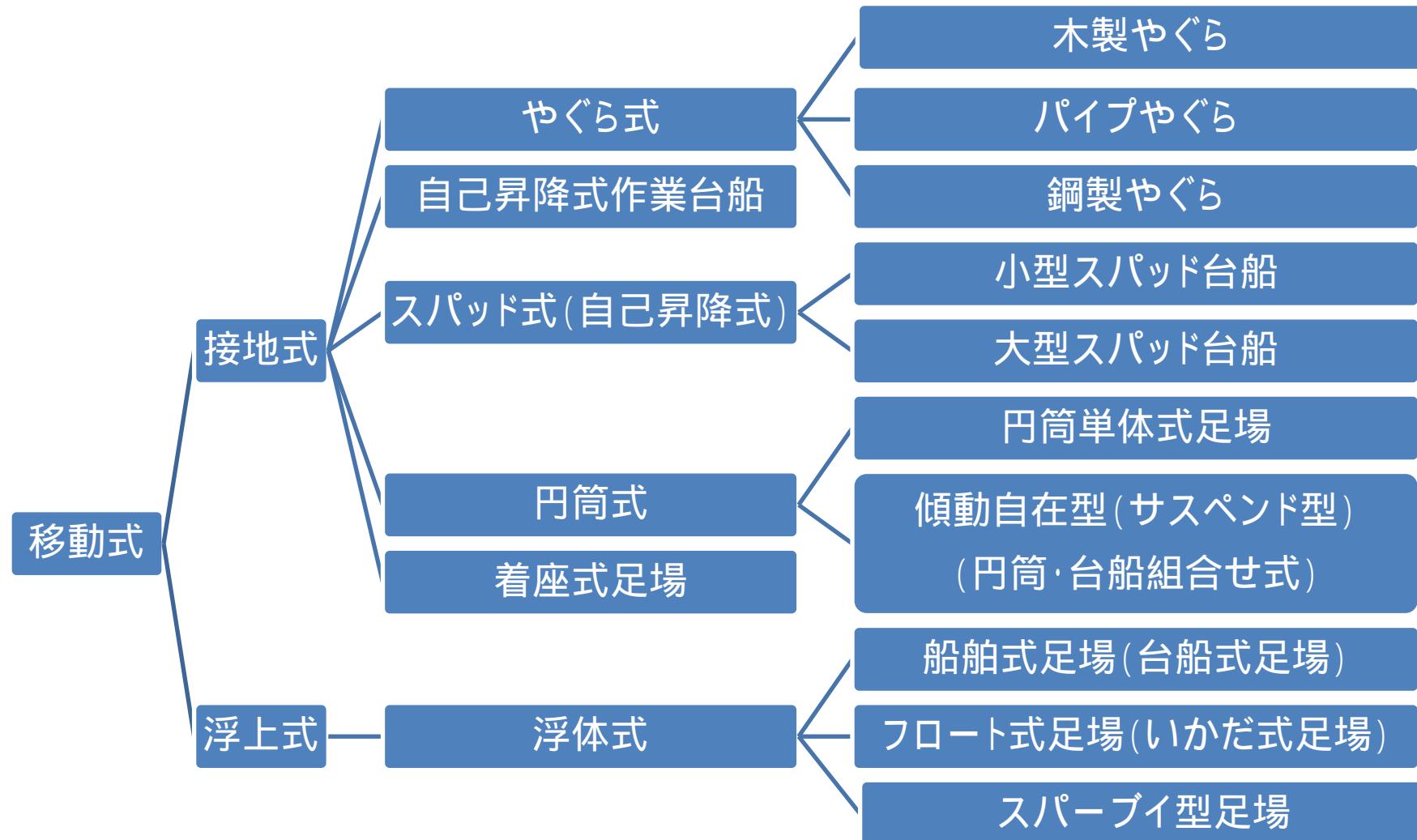
『改訂版 現場技術者のための地質調査技術マニュアル』を参考に作成

# ボーリング作業 足場やぐらの種類(水上:固定式)



『改訂版 現場技術者のための地質調査技術マニュアル』を参考に作成

# ボーリング作業 足場やぐらの種類(水上:移動式)



『改訂版 現場技術者のための地質調査技術マニュアル』を参考に作成